

日本植民地文化運動資料 1

植民地満洲における文化状況の全容を
克明に記録した貴重な資料！

書

〔復刻版〕

香

全八巻
別冊1

満鉄各図書館報〔後に満鉄大連図書館報となる〕
満鉄大連図書館 編

緑蔭書房



『日本植民地文化運動資料』刊行にあたって

近年、日本植民地の研究は質量とも大きな発展を遂げつつあるが、まだまだ政治・経済的側面への偏重は否めない。より構造的に浮き彫りにするために文化史的な視点からの分析が必要である。本資料集の刊行は植民地研究の上で、これまで不十分であった文化運動関係の資料を提供しようとするものである。

本資料集が対象とする地域は、戦前・戦時中、日本が植民地としていた地域及び占領地域である。即ち台湾、朝鮮、満洲、樺太を中心に中国(満洲を除く)、フィリピン、ベトナム、タイ、ビルマ、マレーシア、シンガポール、インドネシアそれに南洋諸島等の所謂「大東亜共栄圏」とほぼ重なる地域を対象とする。

また対象とする分野は官民・民族を問わず広く知的・精神的・思想的運動を含む。例えば新聞・雑誌・放送・映画・図書館等の諸メディアから教育、文芸、言語、都市計画・建築、社会・生活改造等である。

本資料集は、最初に日本植民地下でどのような集積がなされていたのか、それが最もよくわかる図書館資料を刊行し、随時他の分野の資料も公開していく予定である。

『書香』復刻にあたって

南満洲鉄道株式会社、いわゆる満鉄の図書館の機関誌として著名な『書香』は、一九二五(大正二四)年四月に創刊、月刊誌として翌二六(大正二五)年三月の第二巻三号通巻一二冊を数えたが一旦停刊。一九二九(昭和四)年四月に改めて第一号を復刊し、一九四四(昭和一九)年一二月の通巻一五八号まで刊行された。

このたびの『書香』の復刻は、満鉄図書館史はもとより、近代日本図書館史の空白を埋める上で大きな意義をもつものである。雑誌の内容も多岐にわたり、大連を含め各満鉄図書館二七館の活動の記録、中国新刊図書案内、漢籍紹介、満洲の出版界の動向、北アジア大陸の諸文化、関東軍の動向に関連した情報、本邦書籍の書評、各種の文献目録などは満洲史、中国史、軍閥係史、アジア史研究に関する上でも貴重な資料の宝庫である。

更に従来満鉄研究は、その政治・経済活動に重点が置かれていたが、本書はその文化活動の側面を知る上で欠かせない基礎資料であり、ひいては日本の植民地研究の中でも最も遅れている文化的侵略動態の解明にとっても貴重な文献といえよう。

多分野での幅広い活用を期待するものである。

『日本植民地文化運動資料』関係年譜

- 明治39年 南満洲鉄道株式会社創立
- 明治40年 満鉄調査部に図書室設置(後の大連図書館)
- 明治43年 韓国併合
- 大正3年 奉天、長春など八ヶ所に図書閲覧場設置
- 大正3年 第一次世界大戦勃発
- 大正4年 列車文庫設置
- 大正5年 南満洲司書会成立、『南満洲司書会雑誌』創刊
- 大正7年 大連図書館創立
- 大正8年 朝鮮三一運動
- 大正9年 奉天簡易図書館を本社直営とし、奉天図書館に改称
- 大正11年 衛藤利夫、奉天図書館長に就任
- 大正12年 哈爾濱図書館設立
- 大正14年 『書香』創刊
- 大正15年 柿沼介、大連図書館長に就任
- 昭和3年 張作霖爆殺
- 昭和4年 満鉄図書館業務研究会開始
- 『書香』復刊→19年休刊
- 昭和6年 満洲事変
- 前線兵士への陣中文庫開始
- 昭和7年 満洲国建国
- 『全滿24図書館共通満洲関係漢書件名目録』刊行
- 昭和10年 朝鮮総督府図書館報『文献報国』創刊→19年廃刊
- 昭和11年 奉天図書館『収書月報』創刊→18年休刊
- 昭和12年 日中戦争始まる(7月)
- 満鉄附属地の行政権を満洲国に移譲
- 『図書館新報』第二「次」創刊、17号より『満洲読書新報』と改題
- 新制図書館研究会第一回委員会開催
- 昭和13年 大調査部体制となる
- 昭和14年 哈爾濱図書館『北窓』創刊→19年休刊
- 昭和16年 満洲国図書館協会発足
- 昭和17年 満鉄調査部事件
- 昭和20年 日本敗戦

当時の内地図書館 活動を先導

石井 敦 (東洋大学教授)

大正末期から昭和にかけて日本の社会はもとより、図書館界も暗い、やりきれない空気に蔽われていた。

この時期に古い桎梏から解放され、潤沢な予算と資料費をもっていた植民地(台湾・朝鮮・満洲)の図書館では、多くの有能な図書館員を擁し、活発に活動を展開していた。そうして沈滞した内地の図書館にいろいろな面でインパクトを与えた。中でも満鉄の図書館はその中心であった。

今回ここに復刻された満鉄各図書館連合の館報『書香』は(一九三八年より大連図書館報となる)、以前から北アジア研究の様々な文献を紹介する必見の二次資料として、研究者から待望されていたけれど、上記の点から当時の内地図書館活動を先導した意味において、また植民地下における日本の図書館の実態を探る意味において好個の研究史料となるだろう。

文化財としての 満鉄図書館

石堂清倫 (評論家)

南満洲鉄道株式会社は、日本帝国主義の植民地経営体であった。日本は征服者になっても巧みな

植民者でなかったと言われる。日本の満洲経営も植民者として「成功」しなかったのは、そのような体質から必然であった。

しかしそのなかでも、初代の後藤新平満鉄總裁が洩らしたような「文装」も欠くことができなかった。満鉄経営の諸図書館、わけても大連図書館は、乏しい文化的事業のなかでも出色の施設であったといえる。利用者はほとんど日本人に限られたとはいえ、文化財であったことは否定できない。その事業は図書館勤務者たちによって、ある程度独自の支えられたところがある。『書香』はその一つの側面を伝える貴重な文献である。館員たちが日本の「国策」に従いながら、それをどのように理解し、また何をそれにつけ加えたかを、私たちは自由な立場で判断することができるのでなろうか。

昭和激動期の 文化情況を知る

大谷武男 (元大連図書館司書)

満鉄大連図書館(以下略称連図)発行の月刊誌『書香』(全巻)が、緑蔭書房によって復刊された。

連図は満鉄の社業参考図書館であるが一般にも公開され、東洋学(洋書)に精通した柿沼館長、漢籍に造詣深き松崎先生らの努力と満鉄の財力をバックに、古今の良書を集め、社業を超えた東洋有数の学術図書館への道を着々と歩んできた。しかし敗戦とともに我々の壮大な夢は消え、今はただ「図書目録」に往時の蔵書の大半を偲ぶのみである。『書香』は、連図が社員及び一般読書子の参考に資

満鉄大連図書館前庭にて(前列中央が柿沼館長)



する目的で、大正十四年に創刊されたが、文献目録、図書解題、柿沼館長の「剩語」などで所蔵の一半を窺うことができ、加うるに新書の紹介、書評研究、隨筆など多彩で、昭和激動期の文化情況を知る参考になろう。

最後に、旧館員の一人として、『書香』の全容との再会を喜ぶと同時に、この復刊を企画、実行に移された勇氣ある緑蔭書房に対し、専心から感謝の念を禁じ得ない。

植民地満洲の學術・文化の実相を伝える一級の文獻

小黒浩司 (土浦短期大学専任講師)

南満洲鉄道株式会社(満鉄)は、周知のように日本政府にかわって中国東北地方(満洲)を統治した国策会社であり、鉄道以外にも広範な事業を展開していた。図書館もその一つであり、著名な調査機関の活動を支える参考資料の収集と蓄積を目的に、また沿線附属地の社員・居留民の社会教育施設として、「内地」のそれをはるかに凌ぐ発展を遂げた。『書香』(大連図書館編刊)は、満鉄図書館の概要を知る上で、不可欠の基礎資料であることは言をまたないが、同時に植民地満洲の學術・文化の実相を伝える一級の文獻でもある。しかし本誌は欠号なく所蔵し、利用できる図書館等は皆無に等しく、その復刊は研究者にとってこの上もない朗報である。

満鉄研究は近年急速に深化しつつあるが、文化・教育分野については、研究に必要な基本文獻の整備すら十分とはいえない実情にある。『書香』の復刻は、従来立ち後れていた側面からの考察を促し、満鉄の経営活動の全体像解明に、貴重な貢献を果たすであらう。

編集内容の豊富さに圧倒

岡村敬二 (大阪府立夕陽丘図書館司書)

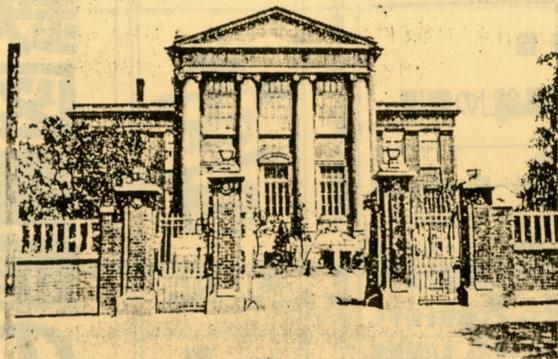
欧化、国粹保存、興亜等と揺れ動いてきた日本近代化の過程で、明治三十九年設立の満鉄および満洲での諸々の活動はある意味でのアイデンティティー(日本)を顕現するひとつの試みの舞台であったといえる。満鉄社業の参考図書館でありかつ沿線住民の利用する公共的図書館でもあった大連、奉天、撫順ほかの満鉄図書館は、この舞台の上で満洲、満鉄の興亡の全過程に確実に同伴した。大正一四年創刊の『書香』、昭和四年に満鉄各図書館報として再刊された『書香』はその満鉄図書館の活動をほぼ映し出している。私は満鉄図書館の刊行物一覧の作成や蔵書集積の歴史、業務研究会等の論考のために通覧したがその編集内容の豊富さには全く圧倒されるばかりであった。そして何よりも、(時代)に生まれ状況に同伴していくなかで伸張した潰滅していった歴史性・時代性ともいうべきリアルさを読み取る体験は圧巻であった。そして今ひとつ、まぎれもなく「偽満」「偽満鉄」であったこの満鉄図書館や、のちの北京近代科学図

書館の文化的営為を、当時の海外でのいくつかの「日本図書館」という群の中で比較検証してみたい気持ちをおこさせる。

満洲国における知の状況

西原和海 (評論家)

満洲国史の研究は、どのような個別的アングルから切りこんでいくにせよ、この「国家」の総体を対象化していこうというモチーフに支えられていない限り、結局、その方法論を見失ってしまうに違いない。これまでの研究史において、特に大きな欠落としてあったのは、いわば「満洲国における知の状況」といったテーマであった。とりわけかの地での図書館活動の実態把握は重要である。言うまでもなく図書館こそは、知の前線と兵站の両者を兼ねていたからである。今回復刻される『書香』をはじめ、満鉄図書館の館報は、単なる図書館情報誌の域に留まらず、ある種の綜合文化誌の趣きすらたたえていた。そこに蓄積された知の業績を、将来、どう批判的に継承していくか、それが私たちの課題となる。最近、「満洲文学」に対する研究的関心が徐々に高まっているようだが、これらの館報は、その分野においても不可欠の資料であることを忘れたくない。



滿鐵圖書館自己紹介 その一

大連圖書館施設概要

大連圖書館は

(イ) 滿鐵會社の參考圖書館として内外の圖書、新聞、雜誌を蒐集整理し、會社各般の業務に關する調査研究資料を會社各箇所に供給すると共に、之を公開して一般の閱覽に供すること。

(ロ) 會社各箇所備附圖書を管理し相互の融通利用を高める方途を圖ること。

をその任務とし、大正7年1月創立せられ、翌年10月1日より一般に公開された。

建 物

大連市東公園町滿鐵本社に面し、總建坪3,298.16坪、うち普通閱覽室は100、特別閱覽室は10の座席を有し、書庫はスタックシステム7階約20萬冊の圖書を收容することが出来る。

藏 書

本館備附の圖書は、本館の任務に鑑み、その蒐集に當り特に次の方面に重きを置いて居る。

- (イ) 支那殊に滿洲蒙古並に露西亞西伯利に關するもの。
- (ロ) 交通殊に鐵道に關するもの。
- (ハ) 殖民移民に關するもの。

- (ニ) 産業に關するもの。
 - (ホ) 政治經濟社會問題に關するもの。
 - (ヘ) 工學理學に關するもの。
- 一般の娯樂修養を目的とする所謂大衆向の圖書は購入を控へその代りに基礎的參考書は成るべく之を備附へて、獨り本館に於てのみならず、沿線圖書館や會社各箇所にも之を融通利用せしむるやうに努めてゐる。

昭和7年3月末現在本館藏書冊數は177,879冊 (和漢書150,977冊 洋書26,902冊) その種類別は次表の如くである。

分 類 別	和 漢 書	洋 書	計
0. 事彙、叢書、隨筆	30,470	3,807	34,277
1. 宗教、哲學、教育	15,748	1,500	17,248
2. 文學、語學	20,806	2,965	23,771
3. 歴史、傳記、地誌	30,422	1,941	32,363
4. 政治、法律、經濟	14,826	3,909	18,735
5. 社會、家事、植民	5,307	2,595	7,902
6. 數學、理學、醫學	7,707	774	8,481
7. 工學、美術、諸藝	11,036	1,808	12,844
8. 産 業	7,077	1,661	8,738
9. 交通、通信	1,878	1,146	3,024
07. 滿 洲、蒙 古	5,700	4,796	10,496
合 計	150,977	26,902	177,877

そのうち重なる集書としては次の如きものがある。

(イ) 大谷文庫

もと大谷光瑞伯の蒐集にかゝるもので、漢籍約5千餘冊、洋書約300餘冊、漢籍は經書府縣志、小説戲曲類が重で殊に小説戲曲類は『警世通言』『醒世恒言』などの明代の稀本を初め180餘部を包括し、この方面の學者の注目するところとなつて居る。これに關しては京城帝國大學辛島驍氏の『滿鐵大連圖書館大谷本小説戲曲目錄』(『斯文』第9編第3、4、6號所載)、北平孔德學校馬隅卿氏の『大連滿鐵圖書館所藏中國小説戲曲』(『圖書館季刊』第2卷第4期所載) 國立北平圖書館孫楷第氏の『中國通俗小説提要』(『國立北平圖書館館葉』第5卷第5號所載) 等の研究が發表されて居る。大谷文庫の洋書は主として支那學關係のもので、アミヨー等の『支那雜纂』を初め明末以來來華宣教の西洋人の著述300餘冊を包括して居る。

(ロ) 支那通志府縣志類

支那通志府縣志類は當館の前身調査課圖書室時代より留意し、支那内地に調査員出張の場合購入を依頼するなど、これが蒐集に努め、現在690餘部を收藏して居る。上海の滬

芬樓は府縣志類の儲藏を以て有名であるが、先年黃炎培氏が來連調査されたところによると、同樓に存して本館になきもの200餘部、本館に存して同樓になきもの80餘部とのことであつた。

(ハ) 支那地圖類

北平在留伊太利公使館員ロス氏が在支30年間に蒐集せられたものを先年購入したもので、南懷仁の『坤輿全圖』を初め、清朝時代の寫圖が多く、西域地方だけでも40餘點あり、全部で450餘點を數へる事が出来る。一昨年展覽會開催の際『支那地圖目錄』と題する展覽目錄を發行したが、近く地圖編纂の年代等をも考へた詳細な目錄を編纂したいと思つて居る。

(ニ) 演劇文庫

もと西卷透氏が蒐集せられたもので、演劇關係の圖書2千餘冊、雜誌約3千冊、日本各地に刊行の文藝雜誌等に發表の戲曲等をも努めて蒐集され演藝文獻としては稀有の豊富のものに屬する。目下整理中で、近く一般に公開し得る見込である。

(ホ) 露文圖書

露西亞革命直後に哈爾濱所在の露西亞の『オゾ』圖書館藏書全部を購入したが、これを基礎としその後新に刊行のものを加へて本館所藏の露文圖書は約3萬冊に及び、滿洲蒙古地方露西亞探險隊の調査報告書を初め露西亞文學書の戦後絶版となつたものなども尠くない。これ等本館所藏の露文圖書と會社調査課並に哈爾濱事務所所藏のものとを綜合せば、恐らく本邦に於て有数の一大集書の一と認めらるべく、昨年これが綜合目錄を編纂刊行した。

本館備附の定期刊行物は、雜誌

◆◆ 滿鐵各圖書館報 ◆◆

書香

昭和十二年十一月

第百一號

滿鐵各圖書館報としての

「書香」終刊の辭

五族協和、日滿融合發展を以て建國の理想とする滿洲國の發達促進に、日本帝國政府は、昭和十一年八月、權の撤廢及び南滿洲國の廢止、滿洲國の獨立を以て、滿洲國の發展促進の方針を確立し、間に進められてきたが、日滿協約が國都に於て、来る十二月一日より施行される。

は、經營母體を一にせる爲、業務は對外的に、對外的にも連絡統制が理想的に行はれ、特別の運用上、他に比を見ざる能率を發揮せしめ、特色あるべき特色である。

研究會ありて、業務の多の實績を擧げて、將に迫りつゝある。此等多數圖書館を以て第一の目標の三大圖書館、設せられたるが、日滿協約の運用上、他に比を見ざる能率を發揮せしめ、特色あるべき特色である。

中國新刊圖書目錄

3 露西亞關係圖書目錄

近來支那に於ける日本研究は素晴らしいものがある。日本に關する書籍が可成りに出版されてゐる。然し從來の勞農露國のそれには及ばない。最近露支關係が極度に險惡化するや以前の様に研究的態度乃至は羅曼的の最近「蘇俄」等例によつて、露支關係の色彩を帯びたものであるが、一種の皮肉さへ覺へる。この目錄は勿論完全なものではない。たゞ出來得るだけ各方面を涉獵した。時局時題として多少とも參考になればと思ひ編んでみた次第である。(矢部生)

目録蘇俄	一般	價目
蘇俄評論	眞美著	1.00
新俄羅斯	川上俊彦著	0.55
俄羅斯一瞥	L. Edna Walter著	0.55
蘇俄論	錢江春編	0.35
蘇俄論	同	0.35

文	學	價目
俄國文學史略	鄭振鐸編	0.60
俄國詩壇の昨日今日和明日	耿濟之譯	同
英漢譯俄國短篇名著	盛敬人編	世界書局
蘇俄小說選	文學週報	同
俄羅斯短篇傑作集	遠東圖書公司	0.20
	水沫社編譯	同

露支關係	價目
蘇俄新法典	顧樹森編譯 中華書局 2.00
蘇俄の東方政策	布施路治著 太平洋書店 1.20
蘇俄十年來の外交	胡國育譯 新生生命書局 0.50
中俄外交史	陳博文選述 王正廷校 商務印書館 0.50
俄羅斯侵略中國痛史	文公直編 新光書局 0.80
英文 中俄外交史	魏良聲著 Russo-Chinese Diplomacy 商務印書館 4.00
中俄關係略史	陳登元著 商務印書館 0.50
勞農政府與中國	張翼飛編 中華書局 0.08
	泰東圖書局 0.50

討論	無產階級	勞農會	國家與革命	共產主義	第3國際	俄國革命與	蘇俄民族政策	世界革命計畫	革命後之俄羅斯	蘇俄共產主義之崩潰	英俄與俄本人	日俄戰爭	呂恩勉	新俄の婦女	何盈
日本再建	推古(イコ)天皇(ノ)	時聖德太子蘇我(ワカ)馬子(マコ)十卷アリ、先神代(シントイ)ノ事ヲ記シ其次ニ神武(シ)	天皇マデ四十代ノ事ヲ記セリ												

ギョツチンゲン大學
の日露支關係文書

滿洲出

滿洲文藝パンについて

1. 滿洲と文藝ジャーナル
獨立した一つの集團を作りたいと云ふ意圖の下になされたいろいろの試み——同人雜誌、各種グループの結成等が過去數年間の滿洲で種々の形態を取つて現れた。それ等の人々の根本的な意識は、先づ一般にブルジョア・リズムの營業政策下にある。この點に於ては、或る點に於ては、我々の「文藝」を與へたのも、これに外なかつた。然るに『文藝』は、或る點に於ては、我々の「文藝」を與へたのも、これに外なかつた。然るに『文藝』は、或る點に於ては、我々の「文藝」を與へたのも、これに外なかつた。

10.30年1月
立圖書館に於
目錄を調べる
ンゲン大學圖書
に入露日本人に
西伯利關係の影
ブトととも蔵を
を知り、こにも
を見出し得ること
年の5月露西亞に入
圖書館・史庫の歴訪
旅し更に南下して維新
月17日午前1時45分に
ンゲンに着、若葉青葉の色
しるく草いきれする木立
ホテル・デパハルツに投
午前大學圖書館を訪れた。
遊すると直ちに手摺本係の
・フオイクト氏に紹介され

三一年
る可
してそ
大家に
個體が
わばな
大家と
6 昭和六
九月十
撃した。
は朝野の
次に掲

内容見本

新中国学の基底

布村一夫 (元熊本女子大学教授)

占領した赤軍は、白系ロシア人のE・エプロフ氏を、満鉄大連図書館の管理者とした。この人が署名した一九四六年十一月十八日づけの退職証明書が、四七年二月末に、引揚船にのることをゆるした。大連図書館は中国長春鉄路公司、科学研究所、中央図書館にわたっていたのである。このときにモスクワの東洋学研究所のポポフ教授が洋書の接収にやってきた。こんな文献を植民地におくべきではないと、彼は日本語で語った。その後接収図書は北京国立図書館にかえされた。

つまり日露戦争のあとの支那の混乱のなかで、大連図書館は支那学文献を集めてきたが、これらが新しい中国にひきわたされて、消滅からまもったということにもなる。

六段建てかの書庫の書棚は、アメリカから輸入した鉄骨づくり、天井も輸入ガラス張り、そのガラス板が二階の廊下であった。それにハルピンの東支鉄道図書館でのDCUも知っていたので、戦後のアイフェに図書館学の講習に、もはやおどろかされなかった。

いやおうなしに満洲で育だち、満鉄に務めて、『書香』に教えられてきた。ここによまれる支那学はずばらしく、新中国学の基底である。ぜひとも学びとり、ふみこえていただきたい。

逸早く横書きを

採用した

青木 実 (元大連図書館員)

当時の本誌責任者であって、大正末年ごろは珍らしく、欧米有名図書館に図書館研究のため留学された柿沼介先生が、本誌第百号を迎えた誌上(昭和十二年十月号)に一文を寄せられたその一節に、『書香』は二十有余の満鉄図書館の共同館報たる性質上、個々の図書館の施設行事に多くの紙面を費やし難い関係をあつて、専ら各館の共通問題たる図書の批評紹介、読書の指導案内などにその主力を注ぎ来ったのである。ことに、専門家の新刊批評を各方面の雑誌、新聞から抄録した『書評輯覧』を毎号連載して、読者の参考に資せんことを努めて来たのである。』と言われていることに本誌の特長は示されている。

当時、朝日新聞社の月刊『読書標』とともに逸早く左横書きをもって特色とし、また附録の「新刊書目」「社内出版物案内」なども世人の注目する処であった。

満洲国への地方行政移管当時、定年となった柿沼先生は満洲国立図書館顧問に転じ、館の傾向は次第に調査局色の強いものとなっていったが、奉天の「収書月報」、哈爾濱の「北窓」、満鉄に残った図書館は文化記事を収載して大いに気を吐いた。

満鉄の図書館は

図書館名	開設時間	休館日	電話
大連	四月から 九八二二時 九時一七時	毎 月 一 日 四月から日曜・祭日 月曜・祭日の翌日	公 六四三二番 公 五九五七番 公 五九五六番
日本橋	九時一七時	日 曜・祭 日	呼 七八一七番
伏見	二時一〇時	日 曜・祭 日	公 五三三四番
近江	七九三〇時一六三〇時 八月は九三〇一六三〇時	日 曜・祭 日	公 九二〇一七
半頭	二時一八時	日 曜・祭 日	公 九二〇一七
日出版	十月から 二二一八時 日曜祭日は六時まで	十月から日曜・祭日	公 九二〇一七
沙河	二二一〇時	日 曜・祭 日	公 九二〇一七
南沙河	十月から 二二一八時	日 曜・祭 日	公 五三三番
瓦房店	十月から 九八二二時	日 曜・祭 日	公 五三三番
大石橋	十月から 二二一〇時	日 曜・祭 日	公 三九番
海城分館	五月から 二二一〇時 日曜・祭日	日 曜・祭 日	公 八二五番
營口	十月から 九八二二時	日 曜・祭 日	公 四五二番
遼陽	七月九八二二時一八二二時	月 曜・祭 日 翌日	公 二七七四番
奉天	十月から 八八二二時 十月から 九八二二時	毎 月 一 日	公 八〇〇番
八幡	十月から 九八二二時	日 曜・祭 日	公 九〇番
撫順	日曜祭日は 九二二七時	毎 月 一 日・祭 日	公 三二一七番
鐵嶺	二二一九時	日 曜・祭 日	公 八四番
開原	日曜 二二一七時	月 曜・祭 日 翌日	公 四三三番
四平街	九月から 二二一〇時 十月から 二二一九時	日 曜・祭 日	公 九番
公主嶺	十月から 二二一九時	日 曜・祭 日	公 二六四番
新京	日曜 二〇一五時	毎 月 一 日・祭 日	公 二三四番
安東	一三時一七時	日 曜・祭 日	公 一一四番
本溪	日曜 九時一七時	月 曜・祭 日 翌日	公 一五三番
鞍山分館	日曜 九時一七時	月 曜・祭 日 翌日	公 一五三番
哈爾濱	九月から 二二一七時	日 曜・祭 日	公 二四〇番

まじむの近代日本図書館史!

満鉄図書館の全貌を明かす上で不可欠の中心的文献！



大連全景

特集記事・連載記事にみる『書香』の世界

中国出版界の恐慌(国民政府の言論弾圧)

支那新文学書解題

北満関係資料

時局に関する重要記事索引

林羅山の日本書籍考(日本最初の図書解題書全文採録)

陣中文庫・時局文庫作業報告

満洲地理文献考

満蒙を中心とする文献目録に就いて

支那の史学

本邦重要統計書目

満洲関係漢籍解題

露西亞地理学会九五年史

支那人の読書傾向

大連所蔵稀観書解題

欧米人の支那研究重要書目

満和对照満文老檔

満鉄各図書館施設概要

剩語(柿沼介)

各図書館統計月報

関東局納本月報抄

満洲出版界

『書香』解題(稲村徹元)より

大連図書館報としての『書香』の一文に、主として柿沼介館長の指導下で、一館の機関誌とはいえ、かえって視野をひろくアジア大陸の諸資料に注いだとおぼしい、当時の学者や司書たちの真摯な資料受護に満ちた姿を伝えたい。本稿では比較的『書香』誕生の経緯から、前半のいわゆる第一期に焦点を置いたのもこの故に他ならぬ。また、近年ようやく、満鉄図書館史の諸相が種々の角度から解明され、本体の満鉄各図書館所蔵図書の復元的調査は不可能にもせよ、日本、アメリカなどに伝存する若干の旧蔵書ひいては、多くの満鉄(調査)刊行書などを利用しての満鉄およびその図書館の研究も、格段の成果をもたらしている。満鉄の誇った調査活動への研究も多くなり、その旧刊資料類の復刻も数多く盛況である。歴史的な評価への資料提供の責務からも、この種図書館関係資料の復刻が果す役割は大きいし、新旧を問わず、多くの図書館員がその分析解明につとめるのも、現在の諸図書館活動をさらに伸展させる一助として必要なことであろう。



本誌はアジア関係諸資料の紹介を主体にした学術的書評雑誌で、北アジア大陸の諸文化を研究するのに不可欠！

『書香』に収載された主要な文献目録

- 満蒙鉄道関係文献目録
- 熱河文献総覧
- 北支那文献総覧
- 支那・ソ連関係文献抄録
- 新疆文献総覧
- 大連図書館所蔵山東省文献総覧
- 大連図書館所蔵欧文貴重図書目録
- 大連図書館所蔵支那民族性関係文献抄録
- 大連図書館所蔵支那貨幣制度文献抄録
- 大連図書館所蔵戦時経済関係文献抄録
- 燉煌文献抄録
- 支那回教文献目録
- 支那・満蒙関係目録の目録
- 大連図書館刊行分類目録
- 満洲国政府刊行物目録
- 満鉄各館増加図書目録(連載)

「満鉄の図書館 失われた図書館史を求めて」河田いこひ

『状況と主体』No.169より

『書香』は、時局に即応した会社の主張や著名人の講演録をはじめ、図書館員や調査従事者の専門的な研究小論文を掲載した。中国東北地方で軍が目をつけた地域の地誌や文化人類学的研究書、抗日思想・反帝闘争に関する資料の解説などは、毎月掲載した。また、各館共通の問題として、図書の批評、紹介、読書の指導・案内を重視し、専門家の新刊批評を雑誌・新聞から抄録し、「書評輯覧」として連載した。規則類の改正、満鉄各図書館の行事案内、人事消息、大連図書館の増加図書目録をかねた新刊図書の種類目録、利用者の投稿も載せた。『書香』は、沿線図書館の利用者に対しては啓蒙誌・広報誌の役割を果たし、日本国内の図書館界からは、専門誌として一目置かれる存在になった。

旧外地図書館史研究への貴重な資料源の公開!

日本植民地文化運動資料 1

書

〔復刻版〕

香

全八巻
別冊1

体裁＝A5判・B5判／上製本クロス装／函入

頁数＝総3、454頁

定価＝揃定価144、200円(配本価格は左記参照)

ISBN4-89774-002-9 C3000 P144200E

刊行概要

第1回配本——平成4年9月末日刊 配本価格61、800円

第1巻 全12号 大正14年4月～15年3月

第6巻 第143～147号 昭和18年2月～18年6月

第7巻 第148～153号 昭和18年7月～18年12月

第8巻 第154～158号 昭和19年1月～19年12月

別冊 解題(稲村徹元)・総目次・索引(河田いこひ)

第2回配本——平成4年12月上旬刊 配本価格82、400円

第2巻 第1～33号 昭和4年4月～6年12月

第3巻 第34～66号 昭和7年1月～9年12月

第4巻 第67～101号 昭和10年1月～12年11月

第5巻 第102～142号 昭和13年1月～18年1月

〔続刊〕

日本植民地文化運動資料2～5

日本植民地文化運動資料2

北窓 (満鉄哈爾濱図書館報)

全26号 昭和14年5月～昭和19年3月

全5巻・別冊1／A5判・総2990頁

解題—西原和海

日本植民地文化運動資料3

収書月報 (満鉄奉天図書館報)

全91号 昭和11年2月～昭和18年8月

全8巻／A5判・総4130頁

解題—小黒浩司

日本植民地文化運動資料4

満洲読書新報 (満洲読書同好会会報)

全95号 昭和11年1月～昭和20年4月

全2巻／B5判・総980頁

編・解題—西原和海

日本植民地文化運動資料5

文献報国 (朝鮮総督府図書館報)

全90号 昭和10年10月～昭和19年12月

全8巻・別冊1／B5判

解題—藤田豊

(1992.9)

●お取り扱い

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444 (定価は税込みです)